

北部太平洋大中型まき網地域漁業復興プロジェクト（小名浜地区①）

事業実施者：北部太平洋まき網漁業協同組合連合会 使用船舶名：第一寿和丸船団（網船250トン）

北勝丸船団（網船300トン）

支援期間：平成24年6月1日～平成27年5月31日

（大中型まき網漁業）

（取組の内容）

- 船団の合理化：網船2隻（各135トン）に代わり、運搬機能付き網船2隻（250トン、300トン）を導入
2船団8隻96名体制（網船2隻、探索船2隻、運搬船4隻）から
2船団4隻65名体制（運搬機能付き網船2隻、運搬船2隻）に縮減
- 資源管理の推進：「マサバ太平洋系群管理方策」及び「北部太平洋まき網漁業におけるサバ類の試験的IQ」に協力
探索船を廃し探索能力を縮減、魚艙容積は現状規模を維持
- 省エコスト化：船団の合理化による燃油消費量及び氷塩代等の削減
乗組員31名の削減（96名→65名）。
- 高品質製品の水揚：ブライン凍結品及びPS製品の積極的な生産と水揚
- 加工・流通業との連携：震災で水揚船減少の中、積極的に小名浜に水揚し、地元地域水産業及び関連産業の復興及び地域ブランド製品の開発に協力



運搬機能付き網船（250トン）

（事業の成果）

- 水揚量(12,541トン、3年平均)は、計画(13,233トン、3年平均)を約690トン(5%)下回った。
- 船団の合理化・省コスト化
 - ・乗組員は計画どおり96名を65名とし、同人員で操業可能であることを実証
 - ・燃油消費量は計画5,921kl/年(3年平均)を1,576kl/年(約27%、3年平均)上回る削減
 - ・氷塩代約2%(2百万円、3年平均)削減
- 小名浜港へ1,066トンの水揚(3年平均)し、福島県漁連と連携し、ツナ缶15,000個(ブランド試験缶詰)を製造し、製造・販売